

36 民間活力等を活かした「知の集積」の推進

【1, 250 (1, 113) 百万円】
(平成26年度補正予算 600百万円)

対策のポイント

「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みの検討や民間活力を活かした研究を推進します。

<背景/課題>

- ・農林水産・食品産業の成長産業化を加速化するためには、民間活力等を活用した研究開発を推進するとともに、革新的な研究シーズや埋もれた研究成果を商品化・事業化に結びつけるための「橋渡し」機能の強化が求められています。
- ・これらの課題に対応するため、「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みを検討するとともに、民間企業等による事業化に向けた研究や異分野と融合した共同研究等を推進する必要があります。

政策目標

産学連携の強化に向けた仕組みの構築

<主な内容>

1. 知の集積による産学連携推進事業 200 (113) 百万円
コーディネーターを全国に配置し、生産現場や民間ニーズ、研究機関の技術シーズを収集・把握するとともに、民間企業、独立行政法人、大学等が持つ「知」を集集させた産学連携の更なる強化に向けた新たな仕組みを検討するとともに、民間企業等の市場性調査を実施します。

〔委託費〕
〔委託先：民間団体等〕

2. 革新的技術創造促進事業 1, 050 (1, 000) 百万円
農林水産業の生産現場や消費者等のニーズに基づき設定した研究課題の下で実施される、民間企業等の事業化に向けた研究開発や医療や工学などの異分野と連携した研究開発を支援します。

〔補助率：定額〕
〔事業実施主体：(独)農業・食品産業技術総合研究機構〕

3. 技術革新を加速化する最先端分析技術の応用 (平成26年度補正予算 600百万円)

最先端の解析機器を導入したメタボローム解析、分析データのデータベース化及びバイオインフォマティクス（得られるデータを詳細に分析すること）の人材育成を行い、メタボローム解析の農林水産分野・食品分野における応用研究を推進します。

〔補助率：定額〕
〔事業実施主体：民間団体等〕

[お問い合わせ先：技術会議事務局研究推進課 (03-3502-5530)]

民間活力等を活かした「知の集積」の推進

農林水産・食品産業にイノベーションを起こし、商品化・事業化を促進するため、企業、大学等による「知の集積」を通じた技術革新の仕組みを検討。

知の集積による産学連携推進事業

「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みの検討や、コーディネーターを活用した「橋渡し」機能の強化を実施。

オランダ・フードバレー



1,500以上の
企業、研究機関等が
集積、連携

フードバレーの構築により、

- ・自動環境制御型の園芸用ガラスハウス開発
- ・トマト等の園芸品種開発
- ・新たな機能性食品の開発

世界有数の
農産物輸出国へ

我が国においてもイノベーションが必要

H27年度事業内容

攻めの農林水産業を支える 知の集積調査推進事業【新規】

産学連携の更なる強化に向けた仕組みを民間企業・生産者等の関係者と一体となって調査・検討。

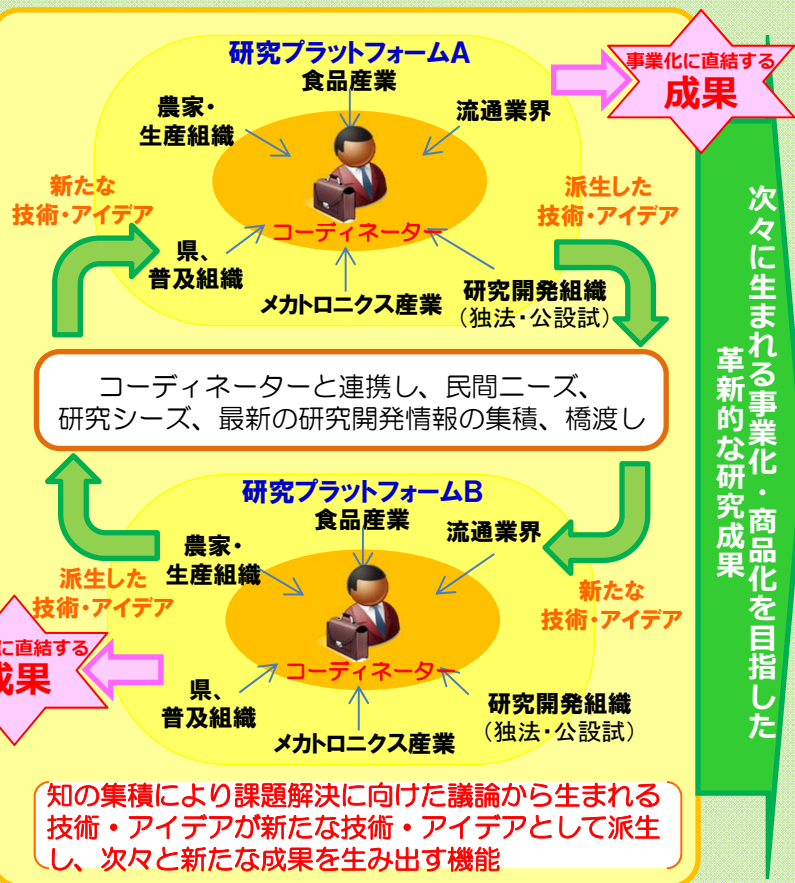
- (1)現状把握・分析
- ・国内外の市場性調査・事例調査
- (2)基本構想の検討
- ・知の集積の場で行うべき研究テーマ
 - ・効果的な連携調整方法
 - ・知の集積の運営体制 等

事業化を加速する 産学連携支援事業

コーディネーターを全国に配置し、事業化ニーズに対応した研究開発とその事業化を支援。

新たな産学連携の仕組み

「知の集積」による産学連携の強化に向けた新たな仕組み
(イメージ：調査事業により具体化)



研究成果
の応用

技術革新を加速化する 最先端分析技術の応用

幅広い応用が可能なメタボローム解析等の革新的分析技術を活用し、産学連携研究を強化。
【平成26年度補正予算】

連携

革新的技術創造促進事業

生産現場等のニーズに基づき、民間企業等による事業化に向けた研究開発及び工学など異分野と融合した研究開発を強化。